



GLOBAL LUNG CANCER
COALITION

グローバルブリーフィング:

症状の認知度、肺癌に対する姿勢、スクリーニングに関する見解、 グローバル調査の結果

概要

国際肺癌連盟 (GLCC) とは、肺癌に対する意識向上と理解促進を図り、すべての人の肺癌の転帰を改善する活動に取り組む患者団体による同盟です。

GLCCの患者憲章には、すべての肺癌患者の権利に関する主張が記載されています。尊厳と敬意をもった対応を受けられること、罹患したことに対する非難や疾患に対する偏見を受けないこと、また疾患に対する偏見をなくすこと、良質な医療を受けられること、情報に基づき自ら決定できること、身体的・精神的に健全であること、機密性とプライバシーが保たれること、といった内容となっています。

2023年、GLCCは、肺癌に対する姿勢、症状に関する公衆の認知度、肺癌のスクリーニングに関する見解を把握するため、4度目の多国籍調査を依頼しました。この調査が実施されたのは、アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、ブルガリア、カナダ、チェコ共和国、デンマーク、エジプト、フランス、ドイツ、英国、ギリシャ、イタリア、イスラエル、日本、メキシコ、オランダ、ノルウェー、ペルー、ポルトガル、アイルランド共和国、スロベニア、南アフリカ、スペイン、スウェーデン、スイス、台湾、トルコ、米国の29カ国です。回答は各国1,000人以上の成人から寄せられました。

この調査は、GLCCのWebサイトに掲載されている2010年、2013年、2017年に実施された過去の調査結果をもとに実施されました。

主な調査結果

症状の認知度

- 10人中4人近く (37.5%) が肺癌の症状を知らないと回答した
- 男性の方が女性よりも症状を知らないと回答する割合が高かった (男性40.49%に対して女性34.85%)
- 症状を知らないと回答した年齢層は18~24歳が最も高かった (45.11%)
- 喫煙歴のない回答者の方が、現在喫煙している/喫煙歴のある回答者よりも症状を知らないと回答する割合が高かった (喫煙未経験者40.20%に対して喫煙経験者36.65%)
- 症状を知らないと回答した割合には、南アフリカの16.80%から日本の54.36%まで、国によって大きな違いがみられた

**GLCCは、世界各地の
政府や医療体制に対し、
次のように呼
びかけています。**

- 的を絞った啓蒙活動を通じて肺癌症状の認知度を高めること
- 肺癌とその原因に関する公衆教育を改善して理解を増進し、偏見を減らすこと
- 生存率向上における早期診断と治療の重要性を強調し、より多くの人が早期に受診するよう促すこと
- できるだけ早期に診断・治療を受けられるよう、全国的な肺癌スクリーニングプログラムを実施すること



肺癌に対する姿勢

- 「他の癌の患者と比べると、肺癌患者にはあまり同情しない」という一文に10人中4人以上（42.62%）が同意を示した
- 肺癌患者に同情を寄せる割合は男性の方が女性よりも低かった（男性50.38%に対して女性35.67%）
- 同情を寄せる割合は年齢とともに増加し、18～24歳で「肺癌患者にはあまり同情しない」という一文に同意を示したのは約50%であった
- 現在喫煙している/喫煙歴のある回答者は、喫煙歴のない回答者よりも同情を寄せる割合がわずかに低かった（喫煙経験者43.15%に対して喫煙未経験者42.33%）

肺癌のスクリーニングに関する見解

- 肺癌患者の早期診断を促進する目的で全国的に肺癌スクリーニングプログラムを実施することに10人中8人以上が賛同した（84.89%）
- 肺癌スクリーニングプログラムの必要性に賛同したのは、男女でほぼ同等の割合であった（男性84.12%に対して女性85.57%）
- 賛同率は年齢とともに増加し、18～24歳では78.65%に対し55歳以上では86.01%であった
- 現在喫煙している/喫煙歴のある回答者と喫煙歴のない回答者では、どちらも大部分が賛同しているものの、喫煙経験者の方が賛同率が高かった（喫煙経験者86.78%に対して喫煙未経験者82.48%）

手法

GLCCは、市場調査機関Censuswide社に対し、2023年7月3日～2023年7月6日の期間に世界29カ国で成人を対象としたインターネット調査を行うよう依頼しました。各国の代表標本を作成するため、成人1,000人以上（一国当たり）を対象に、年齢、性別、地域で重み付けして集計を行いました。回答者に提示された質問は次のとおりです。

- Q1.肺癌には多くの警告徴候や症状があります。肺癌の症状をできるだけ多く列挙してください [「わからない」のチェックボックスも用意されています]
- Q2.肺癌は、主に喫煙やその他のタバコ製品が原因です。「他の癌の患者と比べると、肺癌患者にはあまり同情しない」という一文にはどの程度同意しますか
- Q3.「肺癌患者の早期診断を促進する目的で、全国的に肺癌スクリーニングプログラムを実施する必要がある」という文に対し、どの程度賛同しますか

詳細な分析

症状の認知度

肺癌が早い段階で診断されれば治療の成功率が上がるため、肺癌の症状に関する認知度を高めることは非常に重要です。

今回の調査では、肺癌の症状に関する認知度が全体的に低いことが明らかになりました。10人中4人近く（37.5%）が症状を知らないと回答しています。国によって大きな違いはありましたが、意外にも喫煙状況による違いはあまりありませんでした。

この調査結果は、肺癌の症状に関する認知度を高めるにはさらなる取り組みが必要であることを示唆しています。



図1.症状を知らないと回答した割合(国別)

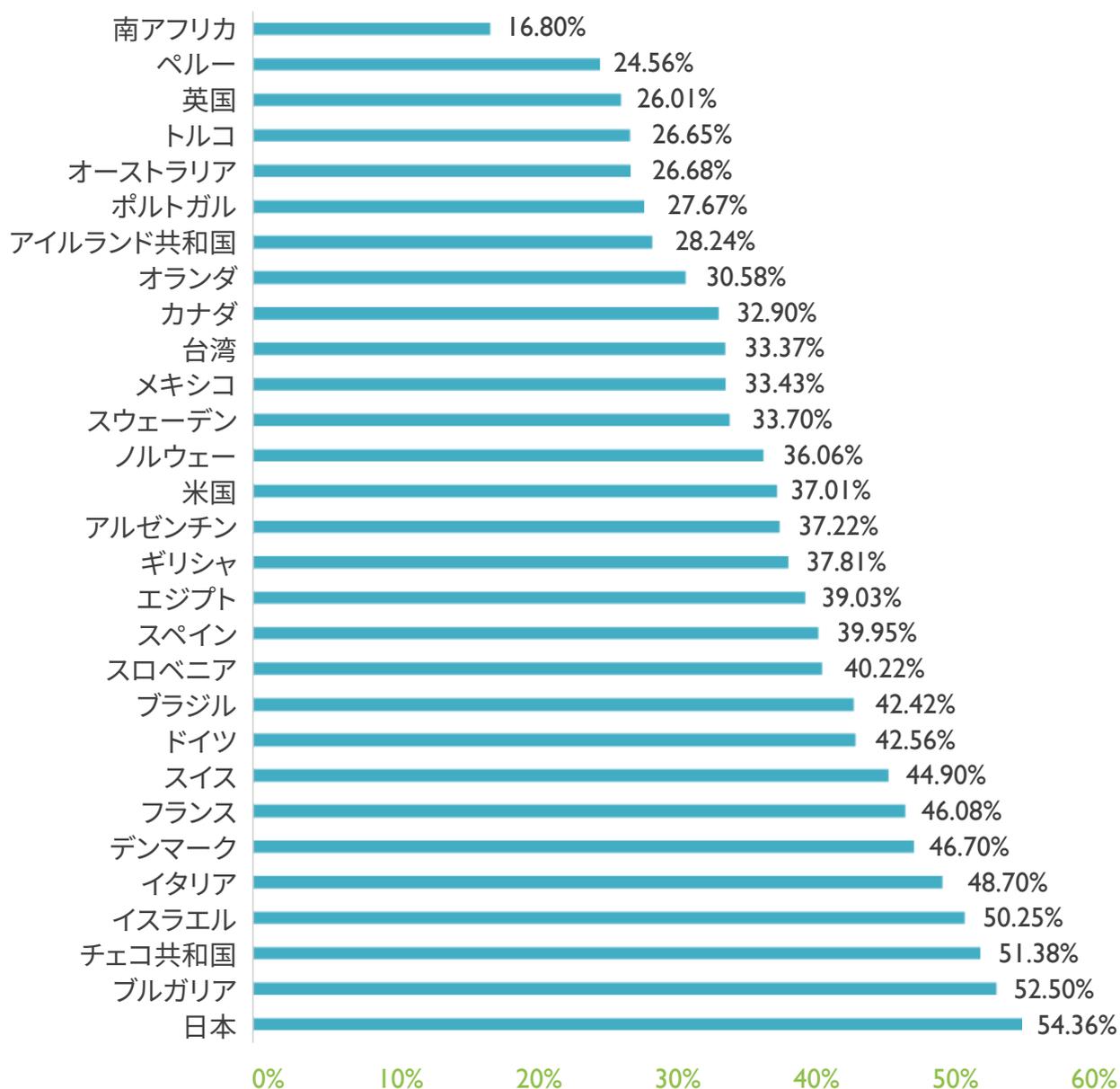


図2.症状を知らないと回答した割合(年齢別)

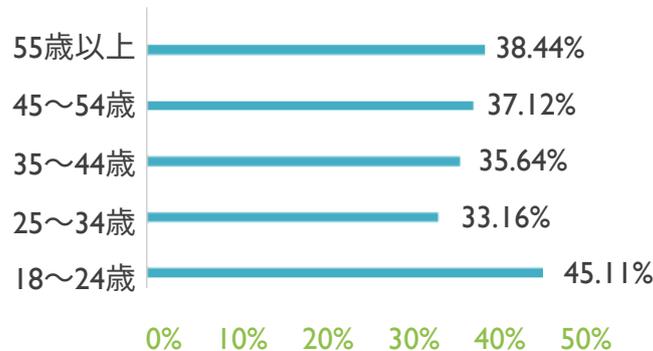
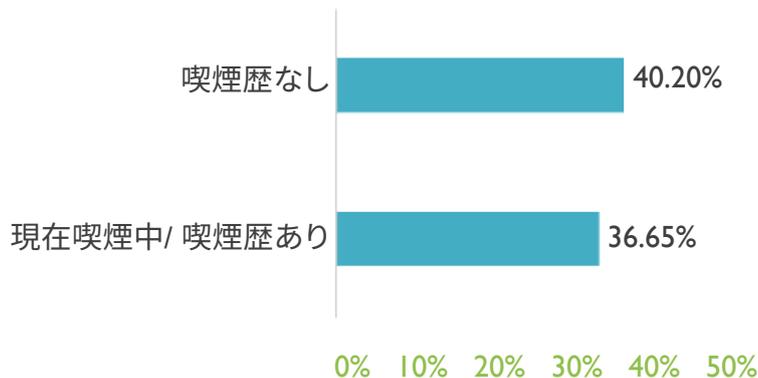


図3.症状を知らないと回答した割合(喫煙状況別)



肺癌に対する姿勢

肺癌の10例中8例以上が喫煙に関連しており、この疾患にまつわる偏見を生み出しています。このことは、人生で一度も喫煙したことがない何千という人々にとって問題であるだけでなく、喫煙したことがある人々にとっても、自責の念から医師へ肺癌の可能性のある症状の申告を遅らせてしまう、という問題を抱えています。

GLCCは、癌の原因が何であれ、誰もが質の高い治療とケアを受ける資格があると考えています。自業自得の肺癌患者など存在しません。もし肺癌を早期に発見できれば、治療の成功率や生存率を向上させることができます。

肺癌に対する姿勢を理解するために、回答者には「肺癌は、主に喫煙やその他のタバコ製品が原因です」という一文を提示しました。その後で、他の癌の患者と比較して肺癌患者に同情するかどうかを尋ねました。

その結果、10人中4人近くが肺癌患者にあまり同情しないと回答しました。また、女性と高齢層の回答者と比べると、男性と若年層の回答者は同情を寄せない割合が高くなりました。この結果は、あまり同情しないと回答した割合が21%であった2017年の調査から大幅に増加したことを示しています。



また、肺癌患者にあまり同情しないと回答した成人の割合も、ノルウェーの31.77%からエジプトの79.35%までと、国によって大きく異なりました。

図4.「他の癌の患者と比べると、肺癌患者にはあまり同情しない」という一文に同意を示した回答者の割合(国別)

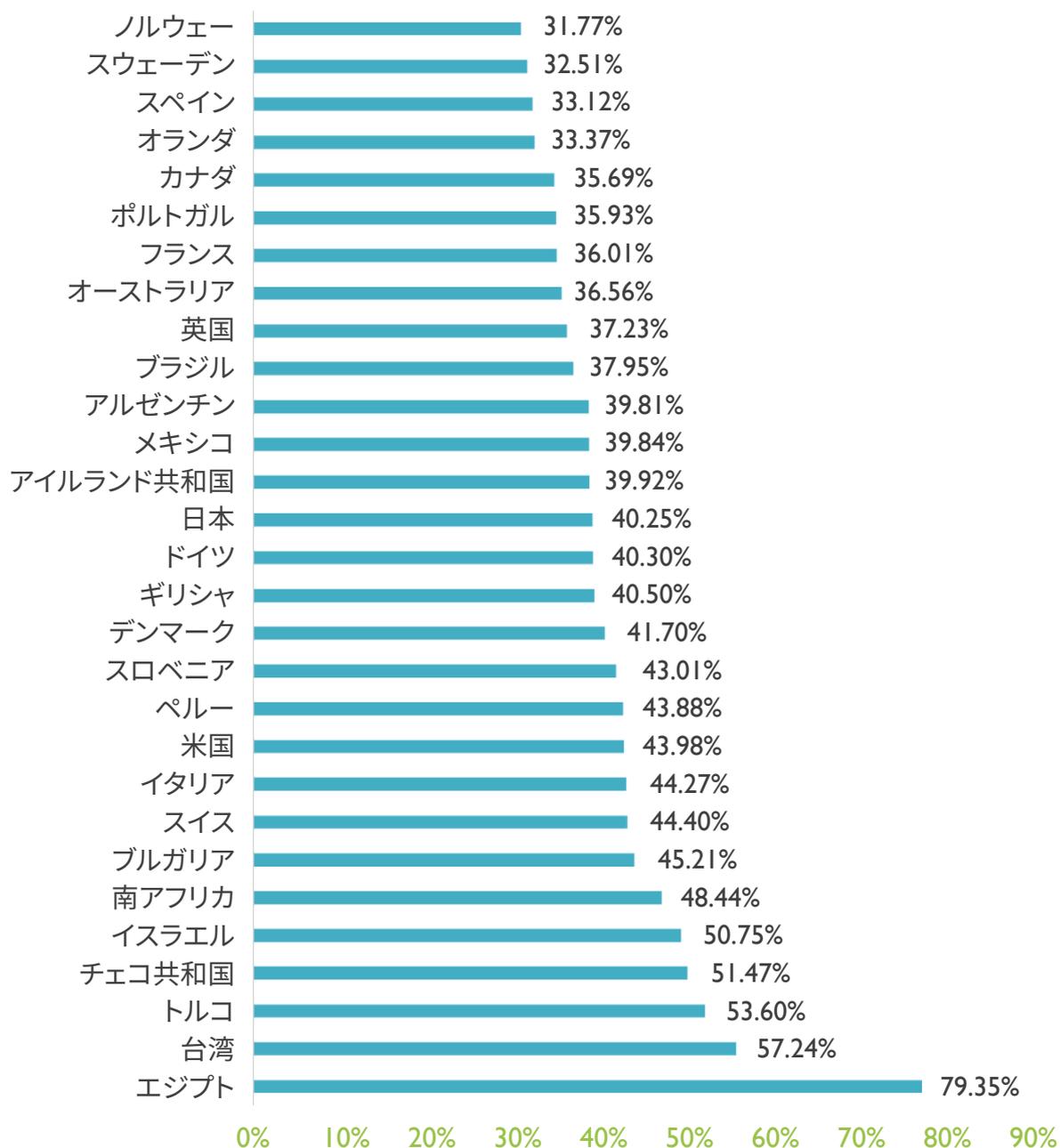




図5.「他の癌の患者と比べると、肺癌患者にはあまり同情しない」という一文に同意を示した回答者の割合(年齢別)

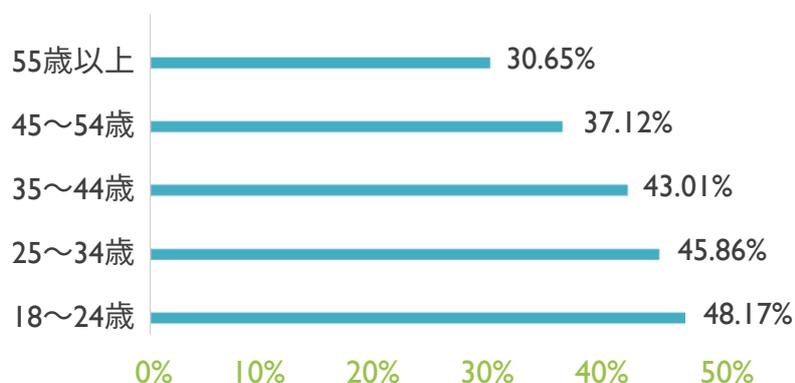
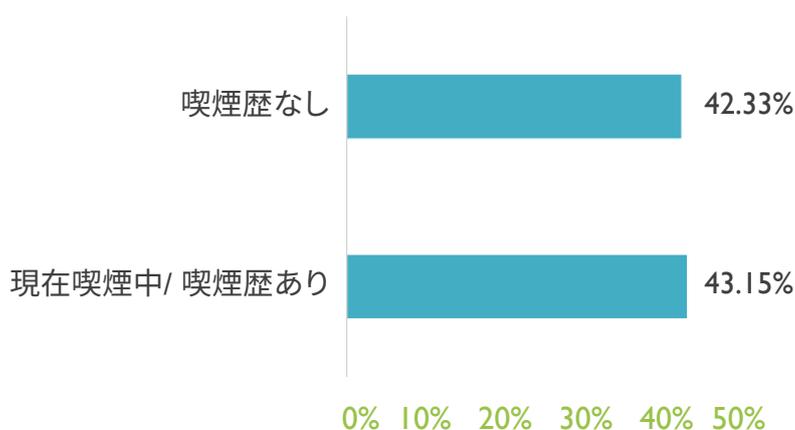


図6.「他の癌の患者と比べると、肺癌患者にはあまり同情しない」という一文に同意を示した回答者の割合



肺癌のスクリーニングに関する見解

全国的な肺癌スクリーニングプログラムは、罹患した個人、その家族、および国と医療体制全体に現在課せられている、疾患による負担を軽減する重要な措置です。

肺の非侵襲性スキャン（低線量コンピュータ断層撮影 [LDCT]）による肺癌スクリーニングは、治癒する可能性が高い早期段階で疾患を検出することで、命を救うことができます。LDCTスクリーニングの大規模臨床試験では、スクリーニングを行わない場合と比較して、経過観察中の10年間の肺癌死亡率が、男性では24%、女性では33%低下することが明らかになっています（de Koning 2020）。

今回の調査では、全国的な肺癌スクリーニングプログラムの実施は世界的に広く支持されており、10人中8人が自国で全国的な肺癌スクリーニングプログラムを実施する必要があると考えていることがわかりました。賛同率は年齢とともに増加し、現在喫煙している/喫煙歴のある回答者は、喫煙歴のない回答者よりも賛同率が高くなっています（それぞれ図8、9を参照）。こうして幅広く支持されているというのは心強いことです。



現時点では、全国的な肺癌スクリーニングプログラムを実施している国はごくわずかです。GLCCは、肺癌がもたらす影響と世界的な支持を踏まえ、肺癌患者の早期診断を促進する目的で、全国的な肺癌スクリーニングプログラムを実施するよう、世界各国の政策立案者に呼びかけています。

図7. 肺癌患者の早期診断を促進する目的で全国的に肺癌スクリーニングプログラムを実施することに賛同した回答者の割合 (国別)

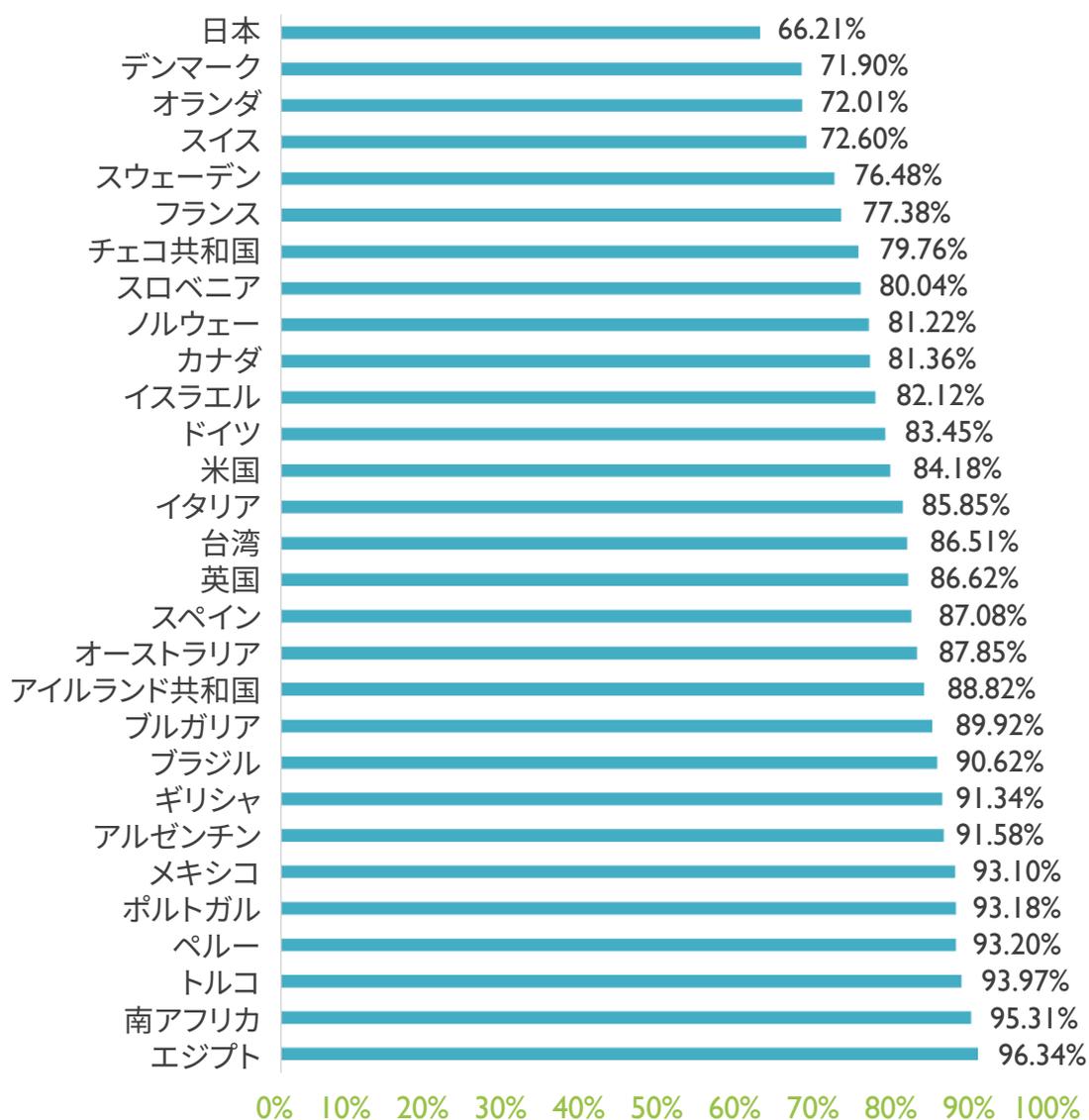




図8.「肺癌患者の早期診断を促進する目的で、全国的に肺癌スクリーニングプログラムを実施する必要がある」という一文に賛同した回答者の割合(年齢別)

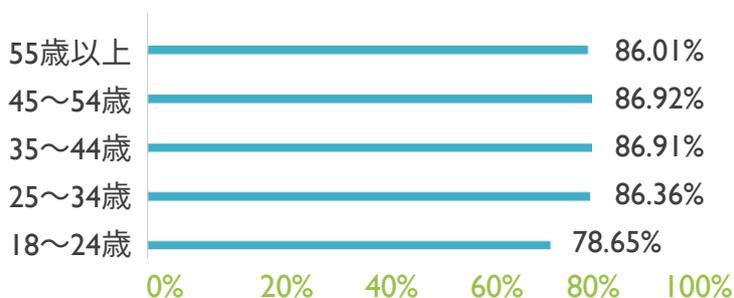
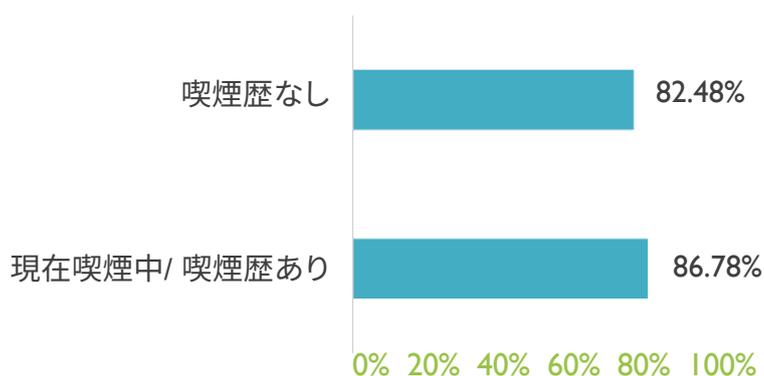


図9.「肺癌患者の早期診断を促進する目的で、全国的に肺癌スクリーニングプログラムを実施する必要がある」という一文に賛同した回答者の割合(喫煙状況別)



詳細情報

GLCCは、2001年に設立され、アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、ブルガリア、カナダ、チェコ共和国、デンマーク、エジプト、フランス、ドイツ、ギリシャ、アイルランド、イスラエル、イタリア、日本、メキシコ、オランダ、ノルウェー、ペルー、ポルトガル、ロシア、スロベニア、南アフリカ、スペイン、スウェーデン、スイス、台湾、トルコ、英国、米国といった国々の43の非政府患者組織で構成されています。

GLCCでは、肺癌に関する国際的な理解を呼びかけると共に、効果的な早期発見、より良い治療、およびサポートケアを受ける患者の権利を推進しています。肺癌患者の国際的な声を代表することで、疾患の転帰を改善することに専心しています。

この調査とGLCCの取り組みについての詳細は、www.lungcancercoalition.org
または当社の事務局 (glcc@roycastle.org) までメールにてお問い合わせください。